



一昨年の6月に完成した『ツナガリの家』は、『こらぼの家』(通信65号)と同じ敷地に建つ、Tさんご家族の住まい+鍼灸院の建物です。『こらぼの家』の号でも紹介しましたが、一つの敷地を共有し、お互いの建物と車庫併新小屋で中庭を囲んだプランが大きな特徴ですが、2階の一部を奥さんの営む鍼灸院として計画し、住まいと仕事

心と体のバランス

完成から2年経過したこの春、念願のお庭が出来上がりました。中庭を中心に様々な木々や草花を植え、お互いの玄関前にはそれぞれ違った趣の前庭やアプローチをつくりました。またTさんの家の前には自然農法にこだわった畑もつくられ、暮らしが徐々に形になっていく実感を感じています。今号では、『ツナガリの家』のこだわりと共に、計画段階のストーリーや庭づくりにについてもご紹介していきたいと思えます。

2P) 家の中心となる、薪ストーブと吹抜けのあるダイニングスペース。丸テーブルやペンダントライトはお気に入りを選び、毎日使う物だからこそ耐久性とシンプルなデザインを重視して選択した。

上) 道路から見て、右が『ツナガリの家』で左が『こらぼの家』。素材や色を合わせつつも屋根形状やボリュームを変えて全体をまとめている。共有の薪小屋兼車庫の裏側に中庭を設けている。

場の両立も大きなテーマとして進めていきました。元々は自宅近くの事務所スペースを借りて鍼灸院を営んでいましたが、お子さんの成長に伴い、家事や育児と仕事との両立が難しくなり、また、自らの暮らしを通して心と身体のバランスを考えていきたいという強い思いも重なり、住宅の計画に合わせて自宅の一部に仕事場を併設させる形で夢を実現していきました。今回の計画は、通常の家づくりにプラスして、鍼灸院や『こらぼの家』との関係など考えていけないといけない事も多く、Tさんご夫婦とは本当にたくさん話を重ねてきました。その中で強く思った事は、タイトルにもつけたキーワード、人と人との繋がりが。鍼灸院や『こらぼの家』を通して色々な方が利用する建物になり、また、Tさんご夫婦の人柄や発信力で、多くの方々の出会いの場となる新しい繋がりを生む場所になっていくと感じました。

完成現場報告
島田市 / 『ツナガリの家』
文・写真 / コロコロ 山崎健治

木と人の つながる暮らし





広いデッキは子供達の遊び場、季節に合わせて変化し、プールやトランポリンなどを置いて楽しんでいる。



ダイニングと和室との間にソファコーナーと階段を配置している。全体がひとつにまとまり、家族それぞれが好きなスペースを見つけて楽しんでいる。



キッチンからダイニング、中庭を眺める。車庫と芝生スペースとの間に常緑樹を植え、四季通じて緑が感じられる中庭をつくった。Tさんの選んだペンダントライトや薪ストーブ横のブラケットライトが個性的な雰囲気をつくっている。

地面を覆ってしまうのではなく、雨が染み込み大地が呼吸できる駐車場兼緑地としました。芝生は管理が大変と懸念する方も多いですが、一面に広がる緑は訪れた方々の目を休め、また夏の照り返しや散水をする事で涼風を得る事が出来、人工物とは違う景色や空気を感ずる事ができる豊かな場所となりました。

中庭や駐車場など草木の緑に包まれたTさんのお宅ですが、家の内部も木に囲まれた板倉構法でつくられています。耐震性や調湿性など、性能面から見た板倉構法の利点も多いですが、木や漆喰などの自然素材で包まれた心地よい空間は、それ以上にこの構法の良さを感じさせてくれます。さらりとした杉の床板は、梅雨時期でもべとつく事なく快適で、湿度の多い日はかえって窓を閉めていた方が涼しく感じられます。また、壁に塗られた漆喰は、クロスとはまた違った光の反射で家の中を明るくしてくれ、数年経過しても汚れが付きにくく白く綺麗に保ってくれます。自然素材といえは、Tさんのお宅では、薪ストーブの背面に大谷石を積み上げました。通常は2cm程度の大谷石を壁に貼る事が多いのですが、背面(洗面室側)に薪ストーブの熱を伝えるため、あえて厚い石を積み上げています。単に積み上げるだけではのっぺりしてしまうので、数ミリの目地を入れて立体的に見せているのも特徴です。



和室から縁側、デッキと続き、中庭の樹々が景観と合わせて『こころぼの家』との目隠しの役割を果たしている。ガラス戸を全開放すると、デッキを通じて外部と内部が繋がり、心地よい開放的な空間が生まれる。

外も内も 木に包まれた暮らし

道路から見て右が『ツナガリの家』で左が『こころぼの家』(P3写真参照)、外観は同じ杉板と漆喰でまとめています。大きな屋根形状などは取って替えて変化をつけています。今回の計画は、窓格子や色合いなどを合わせつつ、屋根勾配や形状、軒先のつくり方については違った納まりとしています。一つの敷地の中に2つの建物を考え、それぞれの大きさや位置、駐車場や玄関位置などをTさんと共にシミュレーションしていきました。計画当初から一貫していたのは、共有部分を設けて植栽で柔らかな区切りをつけることでした。住まいと鍼灸院、展示場という3つの違った要素を無理なく配置し、それぞれの空間が快適でお互い良い関係性をつくること。また、訪れた人や様々なイベントでも無理なく利用できるスペースを確保する事が求められ、打ち合わせの中で多くの時間をかけて検討していき、最終的には、中庭部分と駐車場スペースを共有部分とし、中庭にはそれぞれの空間に合わせて目隠しを兼ねた植栽計画をしました。Tさん側にはデッキと繋がる芝生スペースを設けて子供たちの遊びスペースを確保し、また、道路からの視線を遮るために、車庫と芝生との間に常緑樹を植えました。空間を区切る事で狭く感じると事もあります。柔らかな木々で仕切ると圧迫感はなく、逆に空や周りの風景と一体となった広がりを感じさせてくれる中庭になりました。『こころぼの家』側には大きな木々を建物寄りに植え、訪れた人の視線が間近な木々に向くようにしています。中庭に植えた樹種は、ヤマモミジやカエデ、ヤマボウシなどの落葉樹に加え、ソヨゴ、モッコク、金木犀などの常緑樹を植えました。落葉樹は新緑から紅葉までの変化を楽しみ、常緑樹は目隠しの役割も兼ねて窓の配置に合わせて植えています。植栽をした事で小鳥たちが来るようになり、木々の変化と合わせて観察も楽しみの一つになりました。鍼灸院や展示場などは車での出入りも多く、敷地幅いっぱいには共有の駐車場を設けました。駐車場はコンクリートで

人と人がつながる庭づくり



落葉樹と常緑樹が入り混じる四季を楽しむ庭

1F敷地平面図

今年の4月、待ちに待った庭が出来上がりました。“四季を通して緑を楽しむ庭”をテーマに、落葉樹と常緑樹が入り混じる植栽計画をたてました。今回庭づくりで感じたことは、樹々や草花を植えることで様々なつながりが生まれるということ。二つの家のつながりや、空や土地とのつながり。自然がつくり上げた幹や葉、花がそれぞれの境界を曖昧に繋げ、深みのある空間をつくっていくと感じました。樹々や草花は季節や時で姿を変え、いつも新しいつながりをつくってくれます。まだまだ出来たばかりのお庭、これからの成長や変化を楽しみにしていきたいと思っています。



造園：有限会社東香園

来客を楽しませてくれる工夫と細部のこだわり

鉄平石の飛び石や玄関に設けた植栽など、Tさんのお宅は来客を楽しませてくれる工夫がいっぱいです。季節や時間、天気によっても見え方が違い、何度訪れても新しい発見に出会う場所だと思います。また、内部もTさんならではのこだわりが垣間見え、機能とデザインのバランスが細部の雰囲気をつくり上げています。



左) 中庭から玄関を見た夕景。鉄平石の飛び石で繋がり、周りの植栽の間を通り抜ける楽しい場所になった。

右) 車庫と畑の間に設けた飛び石のアプローチ。車庫と芝生スペースの間に植えた植栽で中庭が見え隠れし、程よい関係を生んでいる。



コーナー窓のある木の浴室。定番の青森ヒバを壁と天井に張り、心地よく香りの良いお風呂になった。



人工大理石天板を利用したオリジナル洗面化粧台。壁に合わせて天板が斜めにカットされている。



背面に大谷石を積み上げた薪ストーブスペース。ストーブは『コンツウラヤンソソC52』。



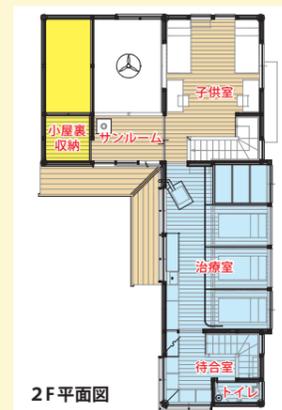
大きなFIXガラスのある玄関スペース。窓にはウッドブラインドを掛け、日差しと視線を程よく遮っている。

仕様内容

家族構成	4人
敷地面積	260.28㎡
建築面積	86.70㎡
延床面積	136.88㎡
構造	落し込み板壁構法
屋根	ガルバリウム鋼板縦ハゼ葺き
外壁	ガルバリウム鋼板角波タテ貼
外部建具	漆喰コテ押え仕上 木製オリジナル建具 ナラ、桧(ペアガラス) アルミサッシ(ペアガラス)
天井仕上	杉本実板 厚30mm・12mm 青森ヒバFJ本実板張り 厚15mm
壁	漆喰塗、青森ヒバFJ本実板張り、 大谷石張り
床	杉本実板 厚3mm
内部建具	桧木製オリジナル建具
キッチン	ステンレスヘアールイン天板 オリジナルキッチン
洗面化粧台	TOTO 人工大理石天板 システムJオリジナル洗面化粧台
浴室	日比野化学工業 ハーフユニットバス、 青森ヒバ貼
設備	
設計・施工	有限会社こころ木造建築研究所
竣工	平成28年6月

はりきゅう 治療室すずみ

多くの病や症状は、五臓六腑の不調から発することがほとんどです。脈診を中心とした診療法を用い、ココロとカラダにあった治療(調整)する場と、セルフケアのための情報を提供しています。



2F平面図



ベットとタタミで4床の治療台がある。木に包まれた治療室。

心と体をつくる住まい

木を太く厚くふんだんに使い、家の隅々まで自然素材で仕上げられたTさんのお宅は、一見とても贅沢な家を感じられるかもしれせん。確かにコストの面では建材を使った一般のお宅に比べてアップしているのは事実ですが、毎日が気持ちよく、視覚的にも体感的にも心地よい住まいである事が家族の元気に繋がります。心も体も充実しているのだと思います。鍼灸院を営んでいるという仕事柄、心と体のバランスをとる大切になっているTさんご夫婦にとって、毎日の食べ物や着るものと同じく、毎日過ごす住まいに対しても真剣に向き合い、自分たちの暮らす最適な住まいをつくり上げていきました。完成して2年が経過し、木の色もだんだんと落ち着いてきました。子供たちもこの家に慣れ、家の中でも外でも好奇心旺盛に毎日を元気に過ごしています。何気無い毎日ですが、その毎日の積み重ねが心と体をつくり、子供たちが成長していくのだと考えると、木の住まいや庭の樹々は贅沢ではなく、むしろ無くてはならないものになっていくのだと思います。Tさんとは様々な面で協力し合い、今後もこの場所を成長させていきたいと思っています。